

偏差警報設定器(偏差アラームセッタ)

WAP-ASH



標準価格 : 48,000円
DC電源 : +5,000円
テストポート : +1,000円

※「99」,「S」コードについては別途お問い合わせください。

本器は、2つの入力信号のうち一方を基準入力とし、他方がその基準入力に対してどれだけの偏差があるかを検出し、その偏差分が予めセットされていた値を超えると、リレー接点信号を出力するプラグイン形のアラームセッタです。
2点の偏差設定値は、デジタルスイッチによって個別にセットできます。また、出力信号は各1T(1ab)接点ですから、外部回路の構成が容易です。

特長

- 設定が容易で確実なデジタルスイッチを表面に実装
- 上限、下限とも各1T(単極双投)接点
- DINレール取付、壁面取付両用のプラグイン形

型 式

WAP—ASH—

ASH 偏差警報設定器(絶縁)

	測定入力信号	入力抵抗
13	DC0~5V	1MΩ
14	DC1~5V	1MΩ
15	DC0~10V	1MΩ
35	DC0~20mA	50Ω
36	DC4~20mA	50Ω
99	上記以外 お問い合わせください 電流入力: 20mA以下 スパン: 10μA~20mA 電圧入力: 300V以下 スパン: 10mV~300V	

	基準入力	入力抵抗
N	DC0~5V	1MΩ
H	DC1~5V	1MΩ
P	DC0~10V	1MΩ
G	DC0~20mA	50Ω
A	DC4~20mA	50Ω
S	上記以外 お問い合わせください 電流入力: 20mA以下 スパン: 10μA~20mA 電圧入力: 300V以下 スパン: 10mV~300V	

電源電圧	
1	AC100V ±10% (50/60Hz)
2	AC200V ±10% (50/60Hz)
3	DC24V ±10%
4	AC110V ±10% (50/60Hz)
5	AC220V ±10% (50/60Hz)

第2警報出力 動作区分	
A	偏差>設定値のときリレー励磁(設定値>0%)
D	偏差<設定値のときリレー励磁(設定値>0%)

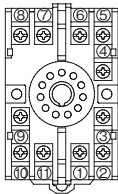
第1警報出力 動作区分	
A	偏差>設定値のときリレー励磁(設定値>0%)
D	偏差<設定値のときリレー励磁(設定値>0%)

△設定値の正負で接点動作が反転します。
詳しくはセンサラーム解説をご覧ください。

仕 様

入 力 信 号	直流電流／電圧
出 力 信 号	直流電流／電圧、リレー接点信号(2出力)
比 較 方 式	アナログ比較方式
設 定 器	デジタルスイッチ設定 第1設定・第2設定独立(各2桁)
設 定 範 囲	0~99%、1%きざみ
設 定 精 度	±1.0%fs
出 力 信 号	リレー接点信号、接点構成1T(単極双投)
リレー接点容量	AC250V・5A(Cosφ=1)、DC30V・5A(Max.) DC5V・10mA(Min.)
再 現 性	±0.5%fs
ヒステリシス	0.3%fs(固定)
応 答 時 間	300ms(0~90%)
動 作 表 示	LED 第1警報: 緑色、第2警報: 赤色
使用温湿度範囲	-5℃~+60℃ 90%RH以下(非結露)
温 度 特 性	±0.015%fs/℃
絶 縁 抵 抗	100MΩ以上(DC500V)
耐 電 圧	入力-第1警報-第2警報-電源各端子間相互 AC2000V 1分間 入力-第1警報-第2警報-電源各端子間相互
消費電力(電流)	約3VA(AC)、約100mA(DC)
電源電圧の影響	±0.1%fs(定格電圧内)
外 形 寸 法	90(H)×51(W)×138(D)mm

質 量	約400g
構 造	プラグイン(本体部とソケット部で構成)
結 線 部 位	ベースソケットのM3.5セムスネジ部
ケース色・材質	本体部: アイボリー色・耐熱性ABS樹脂 ソケット部: 黒色・PPO(ノリル)樹脂
取 付 方 法	DINレール取付または壁面取付
外 形 図	外形寸法図Ⅲ-5参照
端 子 配 列	



No.	記号		内容
1	No.2 OUTPUT	C	第2 警報信号
2		L	
3		H	
4	INPUT(REF)	+	基準入力信号
6	INPUT(MES)	-	測定入力信号
5		+	
7	POWER	U(+)	電源
8		V(-)	
9	No.1 OUTPUT	C	第1 警報信号
10		L	
11		H	

偏差アラームセッタ・解説

動作区分の選定

本器の電源が停電した時に、出力接点が安全サイドに入るように、用途に応じて動作方式を選定してください。

● 加熱の場合の例

非通電時に下限接点がONになる動作方式を加熱制御に用いると、本器の電源が停電した時に、温度が設定値より低いものとみなされて、ヒータが動作し続けてオーバーヒートを招きます。従って、加熱の場合は、停電時に上限接点がONになる動作方式を選定してください。

● 冷却の場合の例

非通電時に上限接点がONになる動作方式を冷却制御に用いると、本器の電源が停電した時に、温度が設定値より高いものとみなされて、クーラが動作し続けて過冷却を招きます。従って、冷却の場合は、停電時に下限接点がONになる動作方式を選定してください。

接点動作説明（代表例）

● 偏差アラームセッタ(ASH)

上限警報

電源			OFF	ON	
入力%と設定%の状態			関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分	A	設定値>0% 上限警報 異常時 リレー励磁			
		設定値<0% 上限警報 正常時 リレー励磁			

下限警報

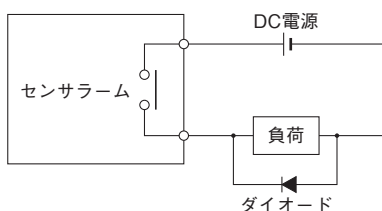
電源			OFF	ON	
入力%と設定%の状態			関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分	D	設定値>0% 下限警報 異常時 リレー励磁			
		設定値<0% 下限警報 正常時 リレー励磁			

接点保護とチャタリング防止

誘導性負荷(DCモータ、コイル等)を駆動する場合は、リレー接点の保護とチャタリング防止のため、下図に準じた方法で対策を施してご使用ください。

● 直流電源の場合

負荷に並列ダイオードまたはCR火花消去器を接続してください。



● 交流電源の場合

負荷にバリスタまたはCR火花消去器を接続してください。

